

8月18日告示・25日投票

### 益田市議選 岡崎 久さん 党西部地区常任委員 擁立へ

日本共産党島根県委員会と同西部地区委員会はこのほど、8月18日告示・25日投票で行われる益田市議選(定数22)で、岡崎久(ひさし)氏(新人)の擁立を決定しました。(写真)日本共産党は、4期目



(69歳)。県立益田高校普通科、中野高等無線電信学校無線通信科卒。民間会社勤務を経て、2013年から党西部地区常任委員。趣味は植木(菊)、釣り。

### 消費増税中止と一緒に 中林、安達、岡崎氏ら農業者と懇談



日本共産党の中林よし子参院鳥取・島根選挙区予定候補は5月22日、国が推進してきた農地開発事業の一つで、益田市にある国営開発農地を訪ね、農業者らと懇談しました。安達美津子市議と岡崎久市議候補が同行しました。

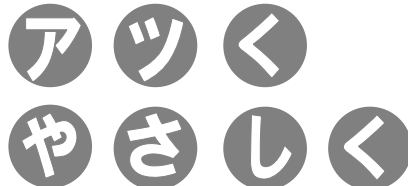
トマトとメロンを栽培している金山清さんは「息子が跡を継いでくれます」と話しました。バラ農家の大畑光さん(43)は消費増税10%への増税について「バラは嗜好(しこう)品なので、(影響が)どうなるのか見通せません」と語りました。中林氏は「まだ間に合います。増税ストップへ力を合わせましょう」と呼びかけました。中林氏らはまた、障がい者を雇用して農業を営む事業者を訪ね、懇談したほか、街頭宣伝にも取り組みました。(写真)

### リニューアルした原爆資料館を見学

広島市の原爆資料館本館が4月25日、展示を一新してリニューアルオープンしました。オープン初日に訪



### 大平よしのぶ 衆議院前議員



れ、5月連休明けにも一度じっくり落ち着いて見学をしました。顔が判別できないほど人間が真っ黒焦げになった生々しい写真や、ガレキの下敷きになった母あるいは子を残したその場を立ち去った家族の思いなどにふれ胸がしめつけられました。一つひとつの展示からあのきこ雲の下で起きた惨劇に思いをはせ、この非人道的性を前に21世紀の人類社会がそれを上回る核兵器をもつ理由などあるはずがないとあらためて強く感じました。同時にいくつか疑問点も。被爆者でもある元原爆資料館長の原田

浩さんが中国新聞のインタビューで「惨状が『この程度』と思われたいよう被爆者の声を取り入れ、展示を必要に応じて見直してほしい」と語っておられるように、被爆者が目の当たりにした地獄絵図は本当にこんなものだったのかとの思いも一方でよぎりました。また、生き残った被爆者の苦しみ、就職や結婚をはじめあらゆる場面で受けてきた差別、放射線被害が本人だけでなく子や孫までの健康をおびやかしかねない世代を超えた終わりの不安などがあまり読み取れませんでした。殲滅的破壊力とともにこの点にこそ通常兵器とは違う重大

な核兵器の非人道的性があるだけに少し残念な印象も受けました。いざ被爆者から直接話を聞くことができなくなった時、この資料館がその代弁をする中心的施設となることは間違いありません。何より被爆者の声に真摯に向き合いながら不断の見直しを求めねばなりません。平和公園・原爆ドームの上空を米軍機が爆音を轟かせながら我が物顔で飛び回っています。「ここがどういう場所かわかっているのか!」——先日、防衛局へ怒りの申し入れにきました。日本共産党の参院選勝利はヒロシマにとっても悲願です。(5月25日付)

### 住民目線の国会論戦

よし子さんの4期9年間の国会論戦について、引退して比例議席をよし子さんに引き継いだ正森成二さんはかつて「中林さん、つねに住民目線で政府を追及していた」と語っていた。これは、まさに地を這う活動を続けてきたよし子さんだからこそ成しえた論戦であった。

### 「竹下さんはへり、中林さんは歩いて」

83年7月の県西部大水害は、よし子さんが初議席を失くした時に発生した。死者112人、被害額推定4千億円という未曾有の大災害に、当時、党は、よし子さんを先頭に救援部隊を組織した。西部への交通網が遮断された中、救援部隊は様々なルートで現地入りし、救援物資や医療支援などが展開された。

### 元衆議院議員(4期9年)

### よし子さんを語る

元中林よし子秘書 吉川 晴雄 (7)

農水委員会での活躍(6参照)は言うまでもないが、他の委員会での論戦や政府交渉など多くの県民要求をとりあげ追及してきた。中国地方で唯一の島根原発の安全確保や米軍の低空飛行訓練中止を求めた追及は、まさに住民の命と安全にかかわる重大事としてなんども取り上げてきた。また、老朽校舎の改修や少人数学級、国保・介護などの福祉要求、さらに地震の被災者要望などで、つぎつぎと実現させてきた。

### 工事現場の仮設トイレ設置へ通達

よし子さんの実績のひとつに、工事現場の仮設トイレの設置がある。まさに地を這う活動の中で、日雇いのおばちゃんからの要望を国政へ届け実現したもので、「くらしのよし子」「身近なよし子」の本領発揮である。かつて、よし子さんを「島根のねえちゃん」と親しくしてきていた大阪選出の三谷秀治衆院議員が「秘書としても、中林さんの庶民目線を大事にせなあかんで…」と言われたことを思い出す。(つづく)



■衆院本会議で、当時の中曽根首相に島根の災害復旧を迫る中林さん。

### 住民の安全、身近な要求掲げ

と汗にまみれて被災者を激励して回り、要望を聞いて回った。そんな中、一機のヘリコプターが上空を旋回して去って行った。後で、「竹下大臣が現地視察」のへりとわかった。後日、被災地では「竹下さんはへりて空から、中林さんは泥まみれで歩いて入ってきた」と噂が広がった。そして、それが、その年の12月の総選挙で2度目の当選へつながったという。